

FUKUSHIMA NEXT

人から始まる、新しい福島。

私たちは過去と未来の接点に生きている。

福島県双葉町の「東日本大震災・原子力災害伝承館」。

福島が経験した震災、津波、原子力災害という未曾有の複合災害を伝えるための施設。

昨年の4月からスタッフとして加わった、いわき市出身の遠藤さんと、南相馬市出身の渡邊さん。

「福島を、その被災の経験を、自分自身で語り継いでいきたい」が就職の動機。

「震災を決して風化させてはならない」というお二人ですが、これからの福島への強い思いがあります。

「震災はとても辛い出来事でしたが、福島を考えるきっかけになりました」

「福島には温かい心、乗り越える力があります」

「復興はいまだ半ば。その変化の中で未来を共にできることは幸せ」

「福島といえば、今もなお『地震のあったところ』。そうじゃない福島を見せたい」

そんなお二人の言葉の中には、新しい福島への歩みを進める強い意志がありました。

福島、その先の環境へ。

震災から10年。

福島の復興に向け、環境省は引き続き環境再生に取り組むとともに、

除去土壌等の県外最終処分の実現に向け、

減容・再生利用の必要性・安全性等に関する全国での理解醸成活動を強化します。

同時に、復興に向けた未来志向の環境施策を福島県と連携して取り組んでいます。

東日本大震災・原子力災害のあった福島で「その先の環境」を目指す思いと行動、

“FUKUSHIMA NEXT”はもう始まっています。

環境省では、“FUKUSHIMA NEXT”広告や活動を通じて、

福島の未来に向けてチャレンジしている方を応援してまいります。

FUKUSHIMA NEXT
募集中!
詳しくは裏面へ

福島、その先の環境へ。
環境省



遠藤さん

渡邊さん

未来志向の環境施策を環境省と福島県が応援します。

FUKUSHIMA NEXT 募集!

環境先進地域へ、福島のリブランディング

FUKUSHIMA NEXTとは、

環境先進地域へ福島のリブランディングを目指す方々を表彰し応援しようとする制度です。

活動のさらなる飛躍を志す人々・団体を公募しております。

優秀な取組を、
新聞などで広く
ご紹介します

応募資格

福島において、環境の視点から地域の強みを創造・再発見する未来志向の取組を実施する方々

募集期間

～ 令和3年 8月31日(火) 17:00まで【募集期間を延長しました。】

環境分野における未来志向の取組の例

脱炭素、資源循環、自然共生などの環境分野において直接的に環境の保全や再生に効果のある取組に限らず、福島への環境への理解や意識の向上に寄与する取組や、原発事故に起因する風評や風化の対策として効果のある活動なども対象とします。

取組の例

- 福島県内の自然資源の保全や活用による交流人口の拡大に向けた取組
- 福島県内の国立公園等におけるワーケーションの促進に関する取組
- 福島県内における地産地消の再生可能エネルギーの促進、省エネルギー対策など、地球温暖化対策に実効ある未来志向のまちづくりの取組
- 廃棄物の発生抑制や循環的な資源利用に関する取組、災害にも強い資源循環スキームの整備促進に関する取組
- 未来志向の環境施策の取組を通じ、福島の復興の姿を広く県内外に発信し、福島県の風評払拭に関する取組
- 上記の各取組と合わせて多くの主体の参画を促す取組

応募資格

自薦・他薦は問いません。

個人(複数人可)による応募を基本とします。企業・団体等の取組であっても、その活動を担ってきた個人(複数人可)が代表して応募することは可能です。また、応募者及び表彰候補者の居住地は福島県内に限りません。

入賞した場合には、環境省と福島県が実施するふくしま環境リブランディングの広報活動である「FUKUSHIMA NEXT」において、広報媒体を通じて、ご紹介する場合がありますので、ご了承ください。

応募方法

1次審査と2次審査を実施いたします。

1次審査

1次審査は書類選考といたします。右のQRコードから環境省サイトにアクセスいただき、様式に必要な事項を記載のうえ、ご提出ください。

2次審査

5分間のプレゼンテーションを実施します。使用する資料について形式は問いませんが5分以内に収まるようにしてください。

福島再生・
未来志向
プロジェクト



応募に関する詳しい条件や募集内容、募集様式については、環境省ホームページをご覧ください。 応募先: mirai_award@env.go.jp 主催: 環境省 共催: 福島県



環境省



福島県